

あなたがあなたで あるために

コラム 2

インターネットで見つからないことは存在しないのと同じこと？

今、多くの人インターネットを利用しています。何かを知りたいとき、調べたいときに使うのは何といっても Google や Bing などの検索エンジンです。

検索エンジンは便利な道具です。気になる言葉を検索エンジンの窓に入力して Enter キーを押せば、あっという間にその言葉に関連したウェブサイトの一覧が画面に出てきます。検索エンジンを使うと非常に多くの検索結果が出てきますが、ふつうのユーザーであれば、最初の 5 つ、我慢強い人でも最初の 10 個のウェブサイトを見るのがせいぜいでしょう。その他のウェブサイトは、存在はしているけれど、存在していないのも同じことになります。

私たちのデジタルアイデンティティはどうでしょう。自分の名前で検索をしたときに、自分に関する名前が何も出てこないということは、自分がこの世に存在していないのと同じことになるのでしょうか。

個人情報取りまとめサイト

江梨香は自分のキャリアアップのために仕事上の業績を記載した、シンプルですが、良く管理されたオンラインプロフィールを公開しています。彼女は必要に応じてそれを更新し、プロフィールの記載内容に関連する他のウェブ情報（たとえば彼女のことを取り上げたオンライン雑誌の記事など）には適切にリンクを張るようにしています。

最近になって、彼女の仕事についての新しい記事がウェブ上に公開されているかどうかをチェックしたところ、江梨香は自分に関する情報を掲載しているあるウェブサイトを見つけて驚きました。そこには彼女のメールアドレス、職歴、そして彼女がオンラインプロフィールに記載した情報のほとんどが掲載されていて、しかも、彼女ではない別人のウェブサイトにリンクが張られていました。加えて、彼女はマッサージ師などしたことがなかったにも関わらず、そうしたキャリアがあるかのように書かれています。

問題のウェブサイトは無数のウェブページを検索して、ある人物に関連する可能性のありそうなあらゆる情報を見つけだし、羅列するものでした。しかし、このサイトが使っている個人情報を特定するた

めのルールは、江梨香に関する情報がでたらめであったことが示すように、正確ではありませんでした。江梨香がこのサイトを運営する企業に問い合わせをすると、担当者は、自分のプロフィールを訂正したければ、そのサイトに登録して自分で自分のプロフィールを編集するのが一番簡単な方法だといいました。しかし、そうすることで間違いが訂正されるとしても、またこのサイトの利用は無料でしたが、江梨香はなぜ自分がこんなオンラインサービスに登録するよう事実上強制されなくてはならないのかまったく理解できませんでした。